

晴れたらいいね



「ひやくまん穀」生産者部会 設立総会

「ひやくまん穀」生産者部会の設立
米新品種「ひやくまん穀」の高品質安定生産
及び評価向上を目指し、「ひやくまん穀」生産者
部会が発足いたしました。
(7月11日 マリアージュ金沢)

目次

特集 米新品種の 「ひやくまん穀」の販売開始

特集

米新品種の
「ひやくまん穀」の販売開始

P2

現地ルポ

南加賀、中能登

P4

東京事務所だより
大阪事務所だより

P5

行政情報

P6

研究ノート

P8

いしかわのホットな
農業人

P10

いしかわ
農業総合支援機構だより

P11

特集

米新品種の



ひやくまん穀の販売開始

生産流通課

「ひやくまん穀」は、石川県農林総合研究センターが9年の歳月をかけて育成した、本県では14年ぶりとなる期待の米新品種であり、本年10月5日から県内の量販店・JA直売所等で一気に販売が始まりました。

「ひやくまん穀」が県民の皆様に親しまれ本県を代表するお米となるよう、県、生産者、JA、流通関係者が一体となって、生産やプロモーションの活動に取り組んでいます。

1 「ひやくまん穀」の誕生

経営規模の拡大を志向する米生産者からは、所得の確保に向けた生産コストの削減と農作業のピーク分散が可能であり、多収で収穫期の遅い晩生品種の開発が望まれていました。

農林総合研究センターでは、平成18年に育種に着手した約1,000系統の中から、食味、収量性が良く、有望な晩生品種を選抜し、平成27年に「石川65号」として品種登録を申請(平成29年8月14日に登録)し、翌28年には、県の奨励品種として指定を行いました。

また、平成28年には、新品種のPRを兼ねて名称を公募したところ、全国各地から9,516件もの応募があり、その中から、「加賀百万石」の伝統文化・誇りが感じられ、石川の米であることが分かりやすいことや、親しみやすく覚えやすいことから、名称を「ひやくまん穀」に決定しました。

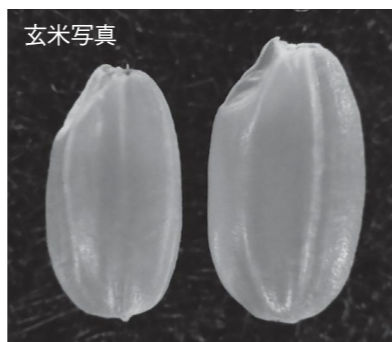
2 「ひやくまん穀」の特徴 ～食味が良く、大粒で食べごたえがあり、冷めてもおいしい～

「ひやくまん穀」の第一の特徴は、その粒の大きさと食味のバランスです。コシヒカリと比較すると粒のサイズはひと回り以上大きく、玄米千粒重は約1.2倍です。また、1粒1粒の食感が際立ち、かつ、もっちりとした粘り強さもあり、食べごたえは十分です。

しかも、そのおいしさは炊きたて時に限らず、時間がたっても硬さや粘りの変化が少ないため、おにぎりやお弁当にもおすすめです。

試食アンケートでも、男女問わず幅広い世代の方から「モチモチしている」、「食べごたえがある」と高い評価をいただいています。

さらに、栽培面では収量性にも優れているほか、収穫時期がコシヒカリよりも2週間程度遅いことから、収穫など作業のピーク分散が可能となり、規模拡大がしやすくなります。加えて、茎がしっかりしているため倒伏にも強く、収量・品質が安定し、効率的な作業が行えるといったメリットもあります。



玄米写真
コシヒカリ 22.5g/千粒
ひやくまん穀 26.1g/千粒

3 生産者部会の設立

平成29年7月11日、生産者が一丸となって「ひやくまん穀」の高品質安定生産及び評価向上に向けた取組みを行うことを目的とし、159の生産者による「ひやくまん穀」生産者部会が発足しました。

部会では品質等の目標や生産のルールなどを生産方針として定めるとともに、県、JA、流通業者、専門家等からなる、米新品種「ひやくまん穀」普及推進委員会と連携し、栽培技術の研鑽・向上に向けた栽培講習会や現地検討会の開催、消費者・実需者向けPR活動への参画、フェイスブック等を活用した情報発信などを行っていくこととしています。



「ひやくまん穀」生産者部会設立総会の様子
(7月11日(火) マリアージュ金沢)

4 認知度を高めるためのPR・販売

「ひやくまん穀」は、その優れた特徴を活かし、一般家庭はもとより、品種や食味にこだわりを持つ県内外の中食・外食などに幅広く販路を拡大し、コシヒカリ以上の生産者所得を目指すこととしています。そのためには、まずは県内での認知度を上げ、県民の皆様の支持を得ることで、需要者に取り扱いたいと思ってもらうことが重要だと考えています。

販売開始にあたり、高い評価を早期に定着させるため、「ひやくまん穀」のロットを確保し、一定条件で品質管理が行えるように、当面は全農いしかわが一元的に集荷し、専用の精米袋で販売を行います。米袋は、「ひ・やく・ま・ん」のひらがなと大粒のお米をモチーフにした印象的な図柄に、加賀百万石を象徴する梅鉢紋をモチーフにしたシンボルマークを配したデザインとなっています。

販売初年度の平成29年は、一般家庭向けには、おにぎり、お弁当に適していることをPRし、気軽に手にとっていただけるよう、2kgや5kgといった小さめの米袋で販売します。

また、多くの県民の皆様に興味を持っていただき、おいしさを実感していただくため、新米キャンペーンや石川の農林漁業まつりでの試食PR、飲食店と連携したフェアの開催など、様々な機会を通じて積極的に情報発信を行ってまいりますので、皆さんもぜひ応援して下さい。



「ひやくまん穀」
専用の精米袋



FaceBook



<https://www.facebook.com/100.kome.ishikawa/>



Instagram



100.kome.ishikawa



Twitter



@HyakuMan_Goku

「ひやくまん穀」のイベントやキャンペーン、生育状況から商品情報まで様々な情報をお届けします。

加賀市最大規模の水稲経営体がエアリーフローラの水稲育苗箱栽培にチャレンジ 南加賀発

(有)吉田農産は、水稲約60ha、大豆・そば・作業受託等約35haを経営する加賀市最大規模の水稲経営体です。水稲育苗用ビニルハウスも11棟所有し、9名の方を雇用しています。

(有)吉田農産では農閑期である冬期間の雇用創出のため、平成28年度から県オリジナルのフリージア「エアリーフローラ」の栽培に取り組み始めました。

エアリーフローラの栽培には、県が水稲経営体に推奨している「水稲育苗箱を用いた栽培方法」を導入しました。これは、ビニルハウス内で水稲育苗箱を利用し、水稲以外の作物を栽培する方法で、一般的な直植栽培と比べ、栽培終了後の地上面の均平化が不要であり、すぐに水稲育苗を開始することができるというメリットがあります。

(有)吉田農産では平成29年2月から3月にかけてエアリーフローラ



水稲育苗箱を用いたエアリーフローラの栽培

を約5千5百本収穫（採花）し、県内外の花市場等に出荷しました。また、ビニルハウスに近隣の保育園児を招き、花育の一環として花見会を開催したところ、非常に好評を得ました。

このように一定の成果が得られたことから、平成29年度は、今年の春に市場デビューした八重の新品種も含めて約5万本にまでエアリーフローラの栽培本数を増やすことにしています。(有)吉田農産の取組みに触発され、管内では新たにエアリーフローラ栽培に取り組む水稲経営体が増えてきており、エアリーフローラの生産拡大につながるものと期待されます。



保育園児花見会の様子

玉ねぎで所得向上を図ろう! in 志賀町

中能登発

志賀町では、JA志賀が主体となって米価下落に備えるため、水稲の複合経営モデルの取組みとして玉ねぎの栽培を推奨しています。この取組みは、野菜栽培の経験が少ない水稲主体の法人経営体を対象に定植機や収穫機、乾燥機などの導入による機械化体系を目指しています。従来玉ねぎの栽培には多大な労力がかかっていたため、機械化による労力削減は栽培面積を拡大できるなどのメリットも多く、費用対効果の高いものとなると考えられます。

取組み初年度となった平成29年産は、苗の生育が悪く定植が遅れ雪解けまで生育がやや不良でしたが、適期の追肥、かん水によって目標単収5t/10aを達成し、大きな手ごたえが得られました。収穫した玉ねぎは県内加工業者に全量販売しており、安定した収益を得ることができました。

平成29年産は志賀町全体で50aの作付けでしたが、平成30年産は新規生産者を加え1.5haに作付けを拡大する予定です。また、平成29年産の結果を踏まえ、経営収支の分析と栽培上の課題の整理を行い、今後の増収と生産者の所得向上につなげていきます。



玉ねぎの収穫の様子

東京事務所だより

首都圏における県産農産物のPR

石川県では、国内最大の消費地である首都圏に向けた県産農産物のPRに積極的に取り組んでいます。

平成29年7月31日、大田市場において、首都圏における本県オリジナル品種のぶどう、「ルビーロマン」の初競りが行われました。

今年で8年目を迎えた初競りでは、31房が競売にかけられ、700グラムを超える「特秀」の1房に大田市場での過去最高を更新する39万円の値が付きました。甘くて大粒のルビーロマンは市場関係者にも非常に好評で、準備した約300粒の試食品は数十秒



大田市場での初出荷セレモニー

で無くなってしまふほどでした。

消費者に向けたPRとしては、8月16日から21日まで、銀座三越で開催された「石川フェア」において、ルビーロマンや石川の初秋を代表するくだものである梨などのほか、県産農産物を使用した菓子や総菜等の加工品、県内の女性農業者による農産物の販売などを行い、好評を得ました。

今後も首都圏の市場に向けて、石川県の魅力ある農産物について積極的に情報発信し、県産農産物のPRを行っていきます。



銀座三越での石川フェア

大阪事務所だより

京阪神の量販店で県産青果物をPR

平成29年7月、京阪神の量販店7店舗で「石川産フェア」を行い、すいかをはじめとする石川県産青果物のPRを行いました。

「石川産フェア」は、京阪神の卸売会社と全農石川県本部及び県が構成する京阪神石川会が主催し、卸売会社の取引先である量販店の協力を得て実施しています。フェアは、量販店の青果売り場において、本県産の主要品目であるすいかの試食宣伝を中心に金時草や赤皮かぼちゃ、太きゅうりなどを販売し、県産青果物を消費者にPRするとともに、京阪神の量販店で通常は取引のない品目も販売し、今後の継続した取り扱いにつなげることを狙っています。

フェアは「すいかが美味しい」など消費者の反応は良く、量販店からも「馴染みの少ない品目も売れた」など好評で売り上げも良いことから、一部の量販店からはフェア終了後も継続して県産青果物を取

り扱いたいとの要望が寄せられています。

平成29年度からは、フェアを年2回から4回程度に増やし、販売拡大を図っていくこととしています。



石川産フェアの様子

● 農業水利施設を活用した小水力発電について ～手取川宮竹用水第二発電所の取組み～

農業基盤課 宮井 尚子

手取川左岸の能美市、小松市を潤す宮竹用水を管理する手取川宮竹用水土地改良区では、受益地の都市化・混住化による農地及び農業者の減少により、土地改良施設の継続的な維持管理が課題となっています。

このため、農業用水を利用した小水力発電所を建設し、売電収入を土地改良施設の維持管理費に充当することにより、受益農家の負担軽減を図る取組みを進めています。

平成 26 年度より補助事業を活用し、能美市宮竹町地内において、土地改良区が事業主体となって「手取川宮竹用水第二発電所」の整備を開始しました。能美市岩本町に設置した取水口から延長約 1.7km の導水管を幹線用水沿いに設置し、最大有効落差 13.6m を確保しました。その落差を利用して発電所に設置した水車により発電します。発電所の最大出力はかんがい期において 580kW、非かんがい期においては 460kW、年間発電電力量は 4,036MWh を計画しています。これは、一般家庭 1,100 世帯分の電力消費量に相当します。

平成 29 年 7 月末までに、発電所の本体工事をほぼ終了し、8 月 17 日からかんがい期における試験運転を開始し、翌年 1 月の非かんがい期の試験運転を経て、平成 30 年 3 月 1 日より発電開始予定としています。今後、この小水力発電所が地域農業の一層の発展に寄与するものと期待されます。



整備された手取川宮竹用水第二発電所上屋



施工中の導水管路



導水管路内部の様子



水車内部の様子

発電施設概要

【発電計画】	かんがい期	非かんがい期
総落差 (m)	15.40m	15.57m
出力 (kW)	580kW	460kW
使用水量 (m ³ /s)	6.50m ³ /s	4.50m ³ /s
有効落差 (m)	11.65m	13.60m

● ホームページで河北潟干拓地の魅力を発信 ～河北潟カタダカラ<河北潟の宝物>～について

農業政策課 若林 悦子

河北潟農産物のブランド化を進めることにより、河北潟干拓地内の農業の活性化を図ることを目的とし、平成 29 年 1 月に、河北潟干拓地に関する 2 市 2 町が連携し、「河北潟農産物ブランド化推進連絡会」を設置しました。平成 29 年度事業では、河北潟干拓地内の農産物やイベント、見どころなどの情報をホームページやリーフレットで県民の皆さんへ広く発信するほか、干拓地内で収穫体験等を行う食育体験ツアーを実施して魅力を実感していただいています。

河北潟農産物ブランド化推進連絡会

金沢市、かほく市、津幡町、内灘町 ※石川県（オブザーバー）

ホームページは、「豊かな自然、広大な土地、生産者の情熱が作り出した河北潟の宝物（農畜産物）」を消費者の方に知っていただきたいという願いから「河北潟カタダカラ（河北潟の宝物）」と名付けました。

情報発信を行っている内容は、

- ① イベント情報（ひまわり村など河北潟干拓地内で開催されるイベント情報）
- ② 農畜産物の旬だより（初出荷や生育情報など）
- ③ 頑張る生産者の紹介（干拓地内で頑張る生産者を動画で紹介）
- ④ 直売所の紹介（干拓地内にある 19 直売所が販売する農産物及び販売時期などを紹介）

などです。

併せて、リーフレットによる河北潟干拓地の食と農に関する魅力の発信も行っています。

また、7 月 30 日に開催された「夏休み親子収穫体験ツアー in 河北潟」では、親子 30 人が、河北潟干拓地の夏を代表する枝豆とすいかの収穫体験を行いました。



「夏休み親子収穫体験ツアー in 河北潟」での様子
※9月にはこまつなの収穫と搾乳の体験を実施しました。



HP「河北潟カタダカラ」TOP ページ

参加した親子からは、「生産者の農作物への愛情を感じた。」などの感想が寄せられ、河北潟干拓地の魅力に直にふれていただく、良い機会となりました。

今後も河北潟干拓地の食と農の魅力を知っていただくための取組みを進めていくことにしています。

大豆「里のほほえみ」における新たな防除体系

農林総合研究センター 農業試験場 清河 文子

1. 背景・目的

大豆品種「里のほほえみ」は、粒径が大きく、^{れつきょう}裂莢率が低いことなどから平成 28 年度に県の奨励品種に指定され、作付面積が増加しています。一方、本品種はこれまでの主力品種である「エンレイ」と比較し、大豆の葉を食害する害虫である、ウコンノメイガが多く発生する事例が散見されています。

また近年、県内の大豆栽培では葉焼病やマメシクイガなどこれまで主要な防除対象としていなかった病害虫が発生するようになり、これら病害虫への適切な対応が求められています。そこで、今回「里のほほえみ」における新たな防除体系を策定しました。

2. 各病害虫による食害と防除

ウコンノメイガ（写真1）による食害、葉焼病（写真2）の発病はともに大豆の小粒化を引き起こします。これらは、開花期（7月下旬）に防除を行うことが最も効果が高いことが明らかとなっています。

また、虫食い豆となり品質を著しく低下させるマメシクイガ（写真3）は年に1回発生し、前年に大豆を食害した圃場の土壌で^{ほじょう}幼虫が越冬するため、連作により被害が増加します。このため、本種の防除は、連作を避けることが基本的な対応となりますが、子実肥大前期（8月中旬～下旬）に加えて後期（9月上旬～中旬）にも本種に有効な薬剤を加えて散布することが効果的と考えられます。

一方、^{しはんびょう}紫斑病およびアブラムシ類が媒介するダイズモザイクウイルス病については、「里のほほえみ」がこれらに対して強い抵抗性を持っているため、これまで実施してきた^{ようきょうき}幼莢期（8月上旬～中旬）の防除を、省略できると考えられます。



写真1 ウコンノメイガによる葉巻被害



写真2 葉焼病の病徴

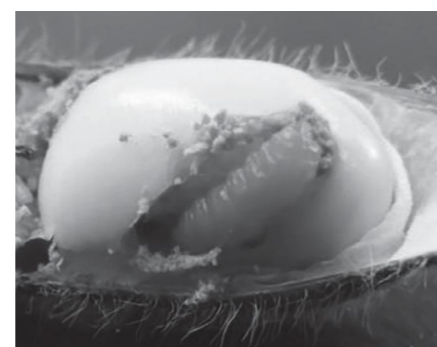


写真3 大豆の子実内を食入（食害）するマメシクイガ幼虫

3. 「里のほほえみ」に対応した新たな防除体系と実証効果

このように、これまでの防除試験の結果や、「里のほほえみ」が持つ病害抵抗性などを考慮し、石川県における「里のほほえみ」の新たな防除体系（図）を考案し、生産現地において実証試験を行いました。

月	7月			8月			9月			10月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育			開花期			幼莢期			子実肥大期			落葉期	成熟期
主な作業	慣行防除体系												
				防除① 紫斑病 アブラムシ類	防除② 紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ			防除③ カメムシ類 ハスモンヨトウ			刈り取り 乾燥・調整		
主な作業	新防除体系												
	防除① 葉焼病 ウコンノメイガ			防除② 紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ			防除③ マメシクイガ						

図 石川県における「里のほほえみ」の新たな薬剤防除体系

- * 1. 慣行防除に加え、開花期にウコンノメイガ、葉焼病の防除を行う
- 2. また、子実肥大後期にマメシクイガの防除を行う
- 3. 慣行防除で行っている紫斑病、アブラムシ類の防除を省略する

その結果、新たな防除体系では、ウコンノメイガ、葉焼病による被害が減少し、マメシクイガの食害も抑制されたことから、病害虫による被害粒率が低下しました。一方で、大粒比率が上昇し、百粒重も増加したことから、子実の品質が大きく向上しました（表）。

試験区	単収 (kg/10a)	病害虫による被害粒率 (%)	大粒比率 (%)	百粒重 (g)
新防除体系	321.1	10.5	90.5	33.0
慣行防除体系	322.6	14.8	83.2	29.3
無散布	302.0	35.4	79.3	28.6

表 防除体系の違いによる子実収量、品質への影響（加賀市での試験結果）

幼莢期の防除を省略した紫斑病やダイズモザイクウイルス病の発生は、いずれの地域でも極めて少なく、その他の病害虫の発生も見られませんでした。

以上のことから、今回考案した新たな防除体系は、本県の「里のほほえみ」における病害虫の防除により適した体系であると考えられます。平成 30 年産の栽培では、収量および大幅な品質向上に向けて、県内全域での新たな防除体系の導入を目指しています。

いしかわの ホットな農業人

能登町 西中宏美さん（平成28年度「北陸農政局男女共同参画優良事例表彰」北陸農政局長賞受賞）

西中さんは、柿や野菜の加工品開発に取り組み、能登地域における女性起業活動の先進事例として活躍していること、JA内浦町初の女性地区代表理事・能登町初の女性農業委員として農林漁業における男女共同参画の推進に貢献していること等が評価され、平成28年度「北陸農政局男女共同参画優良事例表彰」において北陸農政局長賞を受賞されました。

●活動の契機・展開

西中さんは、結婚を機に平成元年に義父の西中農園で柿の生産販売の手伝いを始めました。平成16年からは本格的に柿やぎんなんの直売を開始しましたが、生の柿は日持ちせず、販売期間が限定されることから、加工品の開発に着手しました。そして種のない「平核無」柿の特性を活かして、切り口が花の模様に見える「花柿」を商品化しました。「花柿」は奥能登各地の直売所で販売されており、平成28年には「世界農業遺産未来につなげる『能登』の一品」に選ばれ、能登の新しい特産品として期待されています。

柿以外にも、乾燥野菜を使った新商品を次々と開

発して好評を得ており、能登地域の女性個人による起業活動・6次産業化の先進事例として活躍しています。

●女性リーダーとしての活躍

平成16年度からの柿の直売やJA内浦町のと野菜加工部会の一員として活動に取り組んできたことが地域で認められ、平成23年度にJA内浦町初の女性地区代表理事に就任しました。また、同年JAの推薦により、能登町初の女性農業委員にも就任し、方針決定の場への参画を通して、女性の意思が反映された農林水産業の実現・農山漁村における男女共同参画の推進に向けて活躍を続けています。



西中 宏美さん



切り口が花の模様に見える「花柿」

いしかわ農業総合支援機構だより

石川県産食材の海外への販路開拓について

国内市場の縮小が見込まれる中、アジア諸国を中心に魅力的な市場が形成されており、新たな販路として期待されています。そこで、(公財)いしかわ農業総合支援機構では、日本近隣で富裕層が多く、輸入規制が少ないシンガポール、香港、小松空港からの貨物用コンテナ搭載の直行便が就航している台湾を主なターゲットに、バイヤーの産地招聘や現地セールス等の販路開拓活動や、輸出に意欲のある生産者への支援に取り組んでいます。

さらに、平成28年度に海外で初めて台湾において、県産食材を使った料理を味わっていただきながら、生産者自らが商談を行う「いしかわ百万石マルシェ」形式の商談会を開催しました。平成29年7月にはシンガポールで谷本知事が出席した「ビジネス商談会・いしかわ百万石マルシェ」を開催し、参加した農林水産関係の11社が200人を超える来場者と積極的な商談を行いました。また、市場初出荷から10年目を迎えた県産ぶどう「ルビーロマン」が本格的に海外デビューし、9月には伊勢丹シンガポールでのフェアが開催されました。

しかし農林水産物や食品の輸出にあたっては、日本国内とは貿易相手国の商流、物流が異なることに加え、検疫や残留農薬基準など輸出関連制度の順守が不可欠ですが、これらの制度は複雑であり、また変更等が行われることも多いことから、専門的な知識や情報収集が必要です。そこで、(公財)いしかわ農業総合支援機構では日本貿易振興機構等と連携して情報収集を行っているほか、台湾に関しては輸出実務経験が豊富で、多くの知見を有する台湾人専門家を「石川県産食材海外販路開拓アドバイザー」として委嘱し、販路開拓活動への助言や支援を受けています。

今後とも関係機関と連携し、海外への販路開拓に関心を持つ方への支援を行ってまいりますので、下記お問合せ先までお気軽にご相談ください。



ビジネス商談会・いしかわ百万石マルシェにおける谷本知事の挨拶



ビジネス商談会・いしかわ百万石マルシェでの商談の様子

【お問合せ先】

(公財)いしかわ農業総合支援機構 TEL 076-225-7621 URL <http://www.inz.or.jp/> 担当：田村、湊

集え！いしかわの未来を担う農業人

「次世代農業人交流大会2017」の開催について

県内の次世代を担う農業者が一堂に会し、地域を超えた仲間づくりを行うとともに、ベテラン農業者らとの情報交換などにより、新しい視点で農業のやり方を考えるきっかけとして、本大会を開催します。

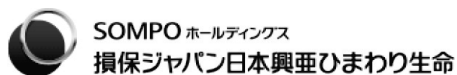
開催日時：平成29年11月2日(木) 14:30～17:15

開催場所：ホテル金沢 2階 ダイヤモンドルーム(金沢市堀川新町1番1号)

内容：(1) 記念講演「次世代農業を創造する」～新しい農業経営とグリーンカラー人材～
株式会社舞台ファーム代表取締役 針生 信夫氏

(2) 交流会 テーマ「石川の農力UP」～無駄は減らず、売上は増やす～
(決められたテーマについてグループ毎に解決策を話し合います。)

お問い合わせ先：農業政策課 担当 上垣、清水 TEL 076-225-1613



新 健康のお守り ハート

払込期間中無解約返戻金限定告知医療保険・手術I型

ご契約年齢
満20歳～満80歳

「不安」を「安心」にかえる医療保険

健康に不安がある方のためにできました。

- ✓ 健康に不安がある方
- ✓ 持病がある方
- ✓ もう医療保険に「はいれない」と思っていた方



を一生涯保障する医療保険です。

HL-P-B1-15-01567 (2016.02.09-2018.01.31)

0037-6001-69420

受付時間

10時～19時
(日曜定休)

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。
恐れ入りますが携帯電話等でおかけ直してください。

【募集代理店】株式会社ニュートン・
フィナンシャル・コンサルティング

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-17-18

広告有効期限:2018年3月31日

【引受保険会社】損保ジャパン日本興亜
ひまわり生命保険株式会社

〒163-8626 東京都新宿区西新宿
6-13-1 新宿セントラルパークビル
TEL:03-6742-3111 (代表)

平成 29 年度 農業情報誌「晴れたらいいね」第 1 号 (通巻第 111 号)

平成 29 年 10 月 発行 発行者 石川県農林水産部農業政策課
TEL. 076-225-1661 FAX. 076-225-1618 メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp